

論点資料補足資料

（諸外国の事例、現行制度の概要等）

諸外国の授業時数等の示し方

授業週数・日数、総授業時数、各教科の授業時数、単位授業時間の示し方は各国で様々であり、大きく以下の3つに分類できる。

- ①年間授業週数・日数もしくは総授業時数まで国（州）として示し、各教科の授業時数や単位授業時間は自治体や学校に裁量を委ねる
- ②年間授業週数や総授業時数に加え、各教科の授業時数まで国（州）として示し単位授業時間は自治体や学校に裁量を委ねる
- ③年間授業週数・日数や総授業時数、各教科の授業時数の定めに加え、単位授業時間まで国（州）として示す

分類	国名	授業週数・日数の定め	総授業時数の定め	各教科の授業時数の定め		単位授業時間の定め
				定めの有無	時数の単位	
①	イギリス (イングランド)	定めあり 年間最低授業日数 (190日)を 基準として示す	定めなし	定めなし	—	定めなし
	カナダ (ブリティッシュ コロンビア州)	定めなし	定めあり 複数学年ごとに 年間最低授業時数を示す	定めなし	—	定めなし
②	オーストラリア (クイーンズランド州)	定めあり 学年ごとに年間授業週数を 基準として示す	定めなし	定めあり 学年ごとに週最低授業時数と 年間最低授業時数を示している*1	時間 (hour)	定めなし
	フランス	定めあり 年間36週を基準として示す	定めあり 複数学年ごとに 週授業時数を基準として示す	定めあり 複数学年ごとに 週授業時数と年間授業時数を 基準として示す*2	時間 (hour)	定めなし
③	韓国	定めあり 年間34週を基準として示す	定めあり 複数学年ごとに 最低授業時数を示す	定めあり 複数学年ごとに年間授業時数を 基準として示すが 20%の範囲で増減可能	単位授業 時間数	基準として定めるが変更可 小学校の場合40分、 中学校の場合45分
	中国	定めあり 年間39週を基準として示す	定めあり 学年ごとに週授業時数及び 年間授業時数を基準として示す	定めあり 学年ごとに総授業時数における 時間配分の上限と下限を示す	単位授業 時間数	基準として定めるが変更可 小学校の場合40分、 中学校の場合45分
	ドイツ (バーデン・ ヴュルテンベルク州)	定めなし	定めあり 学校種ごとに週授業時数を 基準として示す	定めあり 学校種ごとに 週授業時数を基準として示し 各学年への配分割合を調整可能	単位授業 時間数	基準として定めるが変更可 45分
	フィンランド	定めあり 年間190日、 年間38週を基準として示す	定めあり 複数学年ごとに 週最低授業時数を示す	定めあり 複数学年ごとに 週最低授業時数を示す	単位授業 時間数	基準として定めるが変更可 45分

表全体注記：各学校に一定の裁量を持たせる記述が参考資料や原典資料から明確に確認できるものは「基準」として記載し、確認できないものは「基準」として記載しているが、法規範性の有無やその程度については不明。

※1：小学校段階においてのみ週最低授業時数も定められている。

※2：小学校段階においてのみ年間授業時数も定められており年間授業時数を確保していることを条件に週授業時数を調整することができる。

イギリス（イングランド）の授業時数等に関する概要

- 年間最低授業日数は法律で190日と定められている。
- 国が定める教育課程の基準は存在するが、年間授業時数、教科の授業時数、単位授業時間の定めはなく、教育水準局（OFSTED）による監査を行い全国的な教育内容の質保証を図っている。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

キーステージ (KS)		KS1	KS2	KS3	KS4
年齢		5-7	7-11	11-14	14-15
学年		1-2	3-6	7-9	10-11
中核教科	英語	●*1	●	●	●
	算数・数学	●	●	●	●
	理科	●	●	●	●
基礎教科	美術・デザイン	●	●	●	
	市民性教育			●	
	コンピューティング*2	●	●	●	●
	デザイン・技術	●	●	●	
	外国語*3		●	●	
	地理	●	●	●	
	歴史	●	●	●	
	音楽	●	●	●	
その他	体育	●	●	●	●
	宗教	●	●	●	●
	PSHE*4				

出典：Department for Education(2014, p.7), 植田(2021)を参考に筆者作成。

*1 ●は必修科目。空欄は選択科目であるが、学校ごとに開設方法の裁量が与えられている（例えば音楽とICTの合科授業や、英語と演劇を同一科目で扱うなど）。

*2 「情報通信技術(ICT)」から「コンピューティング(Computing)」へ名称変更（2014年）。

*3 KS2では外国語、KS3では現代外国語となる。

*4 PSHE（人格・社会性・健康教育、KS3では人格・社会性・健康・経済教育）は法令上の必修科目とはされていないが、ナショナル・カリキュラムで「全学校は良い実践例を参考にしてPSHEへの対応をすべき」（Department for Education, 2014, p.5）と示されている。

◆時間割例（Morningside小学校 第1学年の事例より）

- 教科に応じて授業時間を変更し、弾力的な時間割編成としている点が特徴である

	授業時間	月	火	水	木	金
9:00～9:15	15分	手習い* ¹	手習い	手習い	手習い	手習い
9:15～9:45	30分	フォニックス* ²	フォニックス	フォニックス	フォニックス	フォニックス
9:45～10:30	45分	ライティング	ライティング	ライティング	ライティング	算数
10:30～10:45	—	休憩				
10:45～11:00	15分	読み聞かせ	読み聞かせ	読み聞かせ	読み聞かせ	集会
11:00～11:45	45分	リーディング	リーディング	リーディング	リーディング	リーディング
11:45～12:00	15分	算数の集い	算数の集い	算数の集い	算数の集い	算数の集い
12:00～12:15	15分	集会	集会		集会	物語
12:00～13:00	—	ランチ				
13:00～15:20	140分	宗教 (—)	算数 (45分)	PSHE (30分)	算数 (45分)	算数 (45分)
		音楽 (45分)				
		休憩 (—)	トピック (95分)	算数 (—)	トピック (95分)	トピック (95分)
		体育 (65分)		読み聞かせ (—)		
15:20 下校						

※1：字の書き方の伝授を指す。

※2：英語の綴りと発音の規則性を学び、英語の読み方や書き方の伝授を指す。

（出典）「Morningside Primary School_Our School Day」より仮訳。

カナダ（ブリティッシュコロンビア州）の授業時数等に関する概要

- 第1学年から第7学年までの年間最低授業時数は各878時間（1時間＝60分）、第8学年から第12学年までは各952時間と定められている。
- 各教科の授業時数や単位授業時間の定めはない。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

学年 教科	K	1	2	3	4	5	6	7	8	9
英語またはフランス語*										
*フランス語は、フランス語話者またはフランス語イメージングプログラム履修者が対象										
算数/数学										
科学										
社会										
保健体育										
芸術										
キャリア教育										
応用デザイン・スキル・技術 (Applied Design, Skills and Technologies)										
言語（手話、コアフレంచి、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、中国語、バンジャビ語、スペイン語）										

Required Areas of Learning in an Educational Program Order (Ministerial Order 295/95) 及び Educational Program Guide (M333/99) をもとに作成。

（補足）卒業要件として10学年を対象に数学の習熟度を測る評価を実施しており、一部の教科においては教育内容の質保証の仕組みを設けている。

◆時間割例（Lord Byng中学校の事例より）

- 60分と80分の授業時数を組み合わせて時間割を編成している点が特徴である

	月	火	水	木	金
FIT*	8:40～ 9:20 (40分)				8:40～ 9:20 (40分)
ブロック1	9:20～ 10:20 (60分)	8:40～ 10:00 (80分)	8:40～ 10:00 (80分)	8:40～ 10:00 (80分)	9:20～ 10:20 (60分)
休憩	10:20～ 10:30	10:00～ 10:10	10:00～ 10:10	10:00～ 10:10	10:20～ 10:30
ブロック2	10:30～ 11:30 (60分)	10:10～ 11:30 (80分)	10:10～ 11:30 (80分)	10:10～ 11:30 (80分)	10:30～ 11:30 (60分)
ランチ	11:30～ 12:15	11:30～ 12:15	11:30～ 12:15	11:30～ 12:15	11:30～ 12:15
ブロック3	12:15～ 13:35 (80分)	12:15～ 13:15 (60分)	12:15～ 13:35 (80分)	12:15～ 13:15 (60分)	12:15～ 13:35 (80分)
休憩	13:35～ 13:40	13:15～ 13:20	13:35～ 13:40	13:15～ 13:20	13:35～ 13:40
FIT*		13:30～ 14:00 (30分)		13:30～ 14:00 (30分)	
ブロック4	14:40～ 15:00 (20分)	14:00～ 15:00 (60分)	14:40～ 15:00 (20分)	14:00～ 15:00 (60分)	14:40～ 15:00 (20分)

※：FITはFlexible Instructional Timeの略。生徒が自身の関心や進捗状況に応じて多様な学習活動を行う時間を指す。

オーストラリア（クイーンズランド州）の授業時数等に関する概要

- 学習領域（教科に該当）毎に、学年別の年間最低授業時数と週最低授業時数が示されている*1。
- 標準授業時数の表は1時間＝60分で記載されているが、単位授業時間の定めはない。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

学習領域	時間	Prep	学年1	学年2	学年3	学年4	学年5	学年6
英語	年単位	280	280	280	280	280	240	240
	週単位	7	7	7	7	7	6	6
算数・数学	年単位	200	200	200	200	200	200	200
	週単位	5	5	5	5	5	5	5
保健体育	年/バンド単位	80	160 (80時間/年)		160 (80時間/年)		160 (80時間/年)	
	週単位	2	2		2		2	
科学	年単位	20	20	20	40	40	60	60
	週単位	30分	30分	30分	1	1	1時間30分	1時間30分
人文・社会科学	年単位	20	20	20	40	40	60	60
	週単位	30分	30分	30分	1	1	1時間30分	1時間30分
芸術	年/バンド単位	40	80 (40時間/年)		120 (60時間/年)		120 (60時間/年)	
	週単位	1	1		1時間30分		1時間30分	
技術	年単位	20	40 (20時間/年)		80 (40時間/年)		100 (50時間/年)	
	週単位	30分	30分		1		1時間15分	
言語	年/バンド単位	20	80 (40時間/年)		80 (40時間/年)		80 (40時間/年)	
	週単位	30分	1		1		1時間30分	

※：灰色塗りつぶし枠はオプション。P-9年生までは40週、10年生は38週が授業週とされている。

（補足）オーストラリアン・カリキュラムに基づき悉皆の全国調査（毎年）を実施し、教育内容の質保証を図っている。

◆時間割例

（Brisbane South State中等教育学校 中学校の事例より）

- 各コマに20分、40分、55分、90分の授業時間を弾力的に割り当て時間割を編成している点が特徴である

月	火	水	木	金
探求型学習 8:40～9:20 (40分)	探求型学習 8:40～9:20 (40分)	探求型学習 8:40～10:00 (20分)	体育 8:40～10:10 (90分)	全体集会 8:40～9:20 (40分)
レッスン1 9:20～10:15 (55分)	レッスン1 9:20～10:15 (55分)	レッスン1 10:00～10:40 (40分)	探求型学習 10:10～10:30 (20分)	レッスン1 9:20～10:15 (55分)
レッスン2 10:15～11:10 (55分)	レッスン2 10:15～11:10 (55分)	レッスン2 10:15～11:10 (55分)	休憩1 10:30～10:55	レッスン2 10:15～11:10 (55分)
休憩1 11:10～12:00	休憩1 11:10～12:00	休憩1 11:10～12:05	レッスン2 10:55～11:35 (40分)	休憩1 11:10～12:00
レッスン3 12:00～12:40 (40分)	レッスン3 12:00～12:40 (40分)	レッスン3 12:05～12:45 (40分)	レッスン3 11:35～12:15 (40分)	レッスン3 12:00～12:40 (40分)
レッスン4 12:40～13:20 (40分)	レッスン4 12:40～13:20 (40分)	レッスン4 12:45～13:25 (40分)	レッスン4 12:15～13:10 (55分)	レッスン4 12:40～13:20 (40分)
休憩2 13:20～13:55	休憩2 13:20～13:55	休憩2 13:25～13:55	休憩2 13:10～13:55	休憩2 13:20～13:55
レッスン5 13:55～14:50 (55分)	レッスン5 13:55～14:50 (55分)	レッスン5 13:55～14:50 (55分)	レッスン5 13:55～14:50 (55分)	レッスン5 13:55～14:50 (55分)

（出典）

<https://brisbanesouthssc.eq.edu.au/SupportAndResources/FormsAndDocuments/Documents/Documents/bsssc-class-times-2024-%20junior-secondary.pdf>

（2025年2月27日最終閲覧）より仮託。

*1：小学校段階においてのみ週最低授業時数も示されている。

（出典）国立教育政策研究所『諸外国の教育課程改革の動向』（2022年3月）、QL州教育省「K-12 Curriculum, assessment and reporting framework」より作成。

フランスの授業時数等に関する概要

- 複数もしくは単学年ごとに、週授業時数及び年授業時数が示され^{*1}、教科ごとに学年段階に応じた授業時数が割り当てられている。中学校では各教科の週授業時数内で個別支援や教科横断的活動に充てることが可能である。
- 単位授業時間の定めはなく、学校の裁量で55分ないし50分で設定されている場合が多い。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

	第2学習期	第3学習期		第4学習期	
	小学校 第1～3学年	小学校 第4,5学年	中学校 第1学年	中学校 第2,3学年	中学校 第4学年
フランス語	10時間	8時間	4.5時間	4.5時間	4時間
数学	5時間	5時間	4.5時間	3.5時間	3.5時間
外国語	1.5 時間	1.5 時間	4 時間	3 時間 (第一)	3 時間 (第一)
				2.5 時間 (第二)	2.5 時間 (第二)
体育	3 時間	3 時間	4時間	3時間	3時間
芸術	2 時間	—	—	—	—
美術	—	2 時間	1 時間	1 時間	1 時間
音楽	—		1 時間	1 時間	1 時間
歴史・地理	—	1.5 時間	3 時間	3 時間	3.5 時間
道徳公民教育	1 時間	1 時間	—	—	—
世界への問い	1.5 時間	—	—	—	—
理科	—	2 時間	3時間	—	—
技術	—		—	1.5 時間	1.5 時間
生物・地学	—	—	—	1.5 時間	1.5 時間
物理・化学	—	—	—	1.5 時間	1.5 時間
芸術史	—	授業時間配当無し			
メディア情報教育	—	—	—	授業時間配当無し	
週合計	24 時間	24 時間	25時間	26 時間	26 時間

出典：小学校は2015年11月9日省令。中学校は2024年3月15日付省令

(補足) 視学制度を用いて学校における教育内容の監督等を実施し、教育内容の質保証を図っている。

◆時間割例 (Jean Mounes中学校の事例より)

- 45分単位のコマ数も一部みられるが、原則55分単位の授業時数で各教科に時間が割り振られている

	授業時間	月	火	水	木	金
8:25～9:20	55分	物理・化学	数学	歴史・地理	ドイツ語*	体育
9:25～10:10	45分	CDI (情報資料室)	歴史・地理	フランス語	生物・地学	体育
朝休憩	—					
10:35～11:30	55分	技術	体育	数学	英語	歴史・地理
11:30～12:25	55分		体育	英語		
昼休憩	—					
13:00～13:55	55分	学級生活の時間	FSE (社会教育団体)*		数学	数学
14:00～14:55	55分	フランス語	英語	スポーツ協会*	フランス語	音楽
午後休憩	—					
15:10～16:05	55分	英語	フランス語	スポーツ協会*	フランス語	体操クラス*又は宿題支援*
16:10～17:05	55分	美術	数学		学習*	体操クラス*又は宿題支援*

*：いずれもオプション

(出典) 「Un emploi du temps de sixième _ Collège Jean Mounes.pdf」より仮訳。

(出典) 『国立教育政策研究所『諸外国の教育課程改革の動向』(2022年3月) 参照。

*1：小学校段階においてのみ年間授業時数も定められており年間授業時数を確保していることを条件に週授業時数を調整することができる。

韓国の授業時数等に関する概要

- 授業週数は年間34週を基準とする。学年群ごとの年間授業時数は最低授業時数であり、各教科（群）及び創意的体験活動に充てられている授業時数は20%の範囲で増減が可能である。
- 小学校の1単位授業時間は40分、中学校は45分が原則だが、気候及び季節、発達程度、学習内容の性格、学校の実情などを考慮して弾力的に編成・運営できる。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

学 校		初等学校			中学校
学年群		1～2	3～4	5～6	1～3
教科群	国語	482	408	408	442
	社会／道徳	たのしい生活 144	272	272	510
	数学	256	272	272	374
	科学／実科／ 情報（中学校のみ）	かしこい生活 224	204	340	680
	体育	たのしい生活	204	204	272
	芸術（音楽／美術）	400	272	272	272
	英語	—	136	204	340
	選択	—	—	—	170
	創造的体験活動	238	204	204	306
年間授業時数		1,744	1,972	2,176	3,366

表注1：表中の**太字下線**は、旧課程から変更された箇所を示している。

表注2：1時間の授業は初等学校は40分、中学校は45分を原則とするが、気候及び季節、児童・生徒の発達程度、学習内容の性格、学校の実情などを考慮して弾力的に編成・運営できる。

表注3：学年群の教科群別及び創意的体験活動の時間配当は、年間34週を基準とし、初等学校は2年間、中学校は3年間の基準授業時数を示したものである。

表注4：学年群ごとの総授業時数は最少授業時数を示したものである。

表注5：実科の授業時間は、5～6年生の科学／実科の授業時数にのみ含まれる。

表注6：情報教育は実科の情報領域時数と学校自律時間等を活用し初等学校は34時間以上、中学校は68時間以上編成・運営する。

表注7：初等学校第1～2学年には、合科教科として、「たのしい生活」（道徳）と「たのしい生活」（体育と音楽、美術の合科教科）、「かしこい生活」（社会と理科の合科教科）が設けられている。

（補足）教育省が定める学校評価に係る基本計画の下、各地方で教育課程の適切性等を自律的に評価している。

◆時間割例（ソウル市ウンジョン小学校の事例より）

- 40分の単位授業時間に基づいて一律に時間が割り振られている点が特徴である

	授業時間	開始	終了
登校及び朝活動	—	-	9:00
1 時間目	40分	9:00	9:40
休み時間	—	9:40	9:50
2 時間目	40分	9:50	10:30
休み時間	—	10:30	10:40
3 時間目	40分	10:40	11:20
休み時間	—	11:20	11:30
4 時間目	40分	11:30	12:10
お昼休み	—	12:10	12:50
5 時間目	40分	12:50	13:30
休み時間	—	13:30	13:40
6 時間目	40分	13:40	14:20

中国の授業時数等に関する概要

- ・ 学年ごとに、週授業時数と年間授業時数、総授業時数に対する各教科の配分割合（上限と下限）が示されている。
- ・ 単位授業時間は小学校40分、中学校は45分と示されているが、学校の裁量で調整可能である。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

	学年									総時間数に対する比率 (%)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
国が定める課程	道徳と法治									6～8%
	中国語（言語・文学）									20～22%
	算数・数学									13～15%
	外国語									6～8%
							歴史、地理			3～4%
	科学						物理、化学、生物（或いは科学）			8～10%
							情報科学技術			1～3%
	体育と健康									10～11%
	芸術									9～11%
	労働									
総合実践活動										
地方が定める課程	省レベルの教育行政機関が計画し、設置									14～18%
学校が定める課程	学校が規定に基づき設置									
週時間	26	26	30	30	30	30	34	34	34	
年時間	910	910	1050	1050	1050	1050	1190	1190	1122	9522

表注1：時間数は単位時間。1単位時間は第1～6学年（小学校）40分、第7～9学年（初級中学）は45分。

表注2：表は6・3制を対象としており、5・4制は本表を参考に設定できる。

表注3：省レベルの教育行政機関は9年間の総授業時数を増やさず、各教科各学年の週当たり授業時数の上下限を定める。学校は週当たり授業時数を確保した上で、各教科の週当たり授業時数を決定し、自主的に各授業の具体的な時間の長さを決める。

表注4：労働と総合実践活動は毎週1単位時間以上、グループ活動を原則毎週1単位時間以上設ける。

表注5：地方が定める課程は9年間の総授業時数の3%未満（地方が定める課程を用いて小学校の第1～第2学年で外国語を開設した場合は4%未満）とする。

表注6：労働、総合実践活動、グループ活動、地方が定める課程、学校が定める課程の授業時数は統一的に計画して使用できる。その場合、分散させても、集中的に用いてもよい。

（補足）視学制度を用いて教育の質や教育方法の水準等を調査・監督し質保証を図っている。

◆時間割例（上海市*華東師範大学付属小学校 第1 学年の事例より）

- ・ 単位授業時間は、上海市華東師範大学付属小学校の裁量のもと35分と定められており、当該授業時数に基づいて一律に時間が割り振られている点が特徴である

	授業時間	月	火	水	木	金
8:20～8:30	—	国旗掲揚、ラジオ体操				
8:35～9:10	35分	言語・文学	言語・文学	科学	言語	言語・文学
9:20～9:55	35分	算数	言語・文学	算数	体育と健康	算数
9:55～10:00	—	目の体操				
10:10～10:45	35分	英語	科学	言語・文学	道徳と法治	造形と美術
10:55～11:30	35分	言語・文学	英語	体育と健康	言語・文学	造形と美術
11:30～12:00	—	ランチ				
12:00～12:50	—	昼休み				
12:55～13:10	—	昼の会				
13:10～13:45	35分	道徳と法治	体育と健康	音楽	音楽	クラス活動
14:00～14:35	35分	体育と健康	総合実践活動	学校が定める課程	労働	体育
14:40～15:30	—	運動などの各種活動を行う活動時間、国旗貢献				
15:30～16:30	—	放課後サービス1				
16:30～17:30	—	放課後サービス2				

*：上海市は教育実験地区として中国教育部が示す教育課程の基準とは別に「上海市義務教育課程実施規則」（推奨）を示しており、独自の教育課程を設置する裁量を持つ。

ドイツ（バーデン・ヴュルテンベルク州）の授業時数等に関する概要

- 学校種ごとに、各教科の週授業時数の合計が定められており、どの学年に何時間振り分けるかは各学校の裁量となっている。
- 単位授業時間は45分と定められているが、週授業時数相当を確保すれば単位授業時間や時間割編成は学校で調整可能である。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

基礎学校（1-4年）		ギムナジウム（5-10年）			
教科	時数	授業科目	時数	授業科目	時数
宗教	8	宗教	11	自然科学領域	
ドイツ語	28	倫理	(11)	生物、自然現象及び技術科目群	6
外国語	4	ドイツ語	24	物理	8
算数	21	第一外国語	22	化学	6
事実教授	12	第二外国語	18	生物	5
音楽	6	数学	24	情報発展コース	1
芸術/工作	7	社会科学領域		音楽	9
運動/遊び/スポーツ	12	歴史	10	美術	9
ドイツ語と算数の支援・深化時間（1,2学年の全児童に義務）	4	地理	7	スポーツ	16
テーマ志向のプロジェクト	教科の時間に統合	公民	4	プロフィール（第三外国語、自然科学及び技術、IMP、場合により音楽、美術あるいはスポーツ）	12
合計時数	102	経済/職業・学修オリエンテーション	3	物理（補足、ギムナジウム上級段階導入段階でプロフィール科目を継続しない場合）	1
				裁量時間（全ての生徒に義務）	4
				多様化と支援のための措置時間	9,7

（補足）視学制度を用いて各州において各学校の教育課程の順守の有無を検証し、質保証を図っている。

◆時間割例

（シュツットガルト市シュタイネンベルク基礎学校
（全日制教育プログラムへの参加が必修の基礎学校） 第4学年事例より）

- 単位授業時間は45分一律で割り当てられている

	授業時間	月	火	水	木	金
8:00～8:45	45分	運動/ スポーツ/ 遊戯	音楽	数学	美術/ 工作	自己の ための 学習 (Wir)
8:45～9:30	45分	運動/ スポーツ/ 遊戯	数学	運動/ス ポーツ/ 遊戯	美術/ 工作	自己の ための 学習 (Wir)
9:35～9:50	—	休憩				
9:55～10:40	45分	ドイツ語	ドイツ語	ドイツ語	数学	数学
10:40～11:25	45分	英語	ドイツ語	英語	音楽	数学
11:25～11:40	—	ランチ				
11:45～12:30	45分	個別 学習	個別 学習	個別 学習	個別 学習	ドイツ語
12:30～13:15	45分	ランチタイム活動		音楽 活動	ランチタイム活動	
12:30～14:30	—	ランチタイム活動				
14:30～15:15	45分	テーマ 学習 プログラム	学級会	テーマ 学習 プログラム	授業	
15:15～16:00	45分	テーマ 学習 プログラム	学級会	テーマ 学習 プログラム	授業	

フィンランドの授業時数等に関する概要

- ・ 複数学年ごとに、各教科の週最低授業時数の合計が定められており、どの学年に振り分けるかは各自治体の裁量となっている。
- ・ 週最低授業時数相当を確保すれば、単位授業時間や時間割編成は学校で調整可能だが、義務教育段階では45分としている学校が多い。

◆設置教科等の種類と授業時数等について

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
教科・科目										
母語と母語文学	15			19				10		44
A1言語	2			9				7		18
B1言語					2		2	3		7
数学	7			15				11		32
環境学習	4			10						
生物・地学								7		
物理・化学								7		
健康教育								3		
環境・自然科学合計				14				17		31
宗教・倫理	2			5				3		10
歴史・社会				5				7		12
音楽	2			4				2		8
美術	2			5				2		9
手工	4			5				2		11
体育	4			9				7		20
家庭科								3		3
芸術系選択科目				6				5		11
芸術系科目合計										62
学習・進路指導								2		2
選択科目				9						9
最小授業時間数										228
自由科目 A2言語				(12)						
自由科目 B2言語								(4)		

出典：Valtioneuvoston asetus perusopetuslaissa tarkoitettun opetuksen valtakunnallisista tavoitteista ja perusopetuksen tuntijaosta annetun valtioneuvoston asetuksen 6 §:n muuttamisesta. (286/2024)

※ B1 言語の時間数の変更は 2024 年度より実施。母語及び算数の授業時数増は 2025 年度より実施予定。

(補足) 各学校が、提供する教育及びその効果について点検し質保証を図る。

◆時間割例（ヘルシンキ市オウルンキュラ小学校 第6学年の事例より）

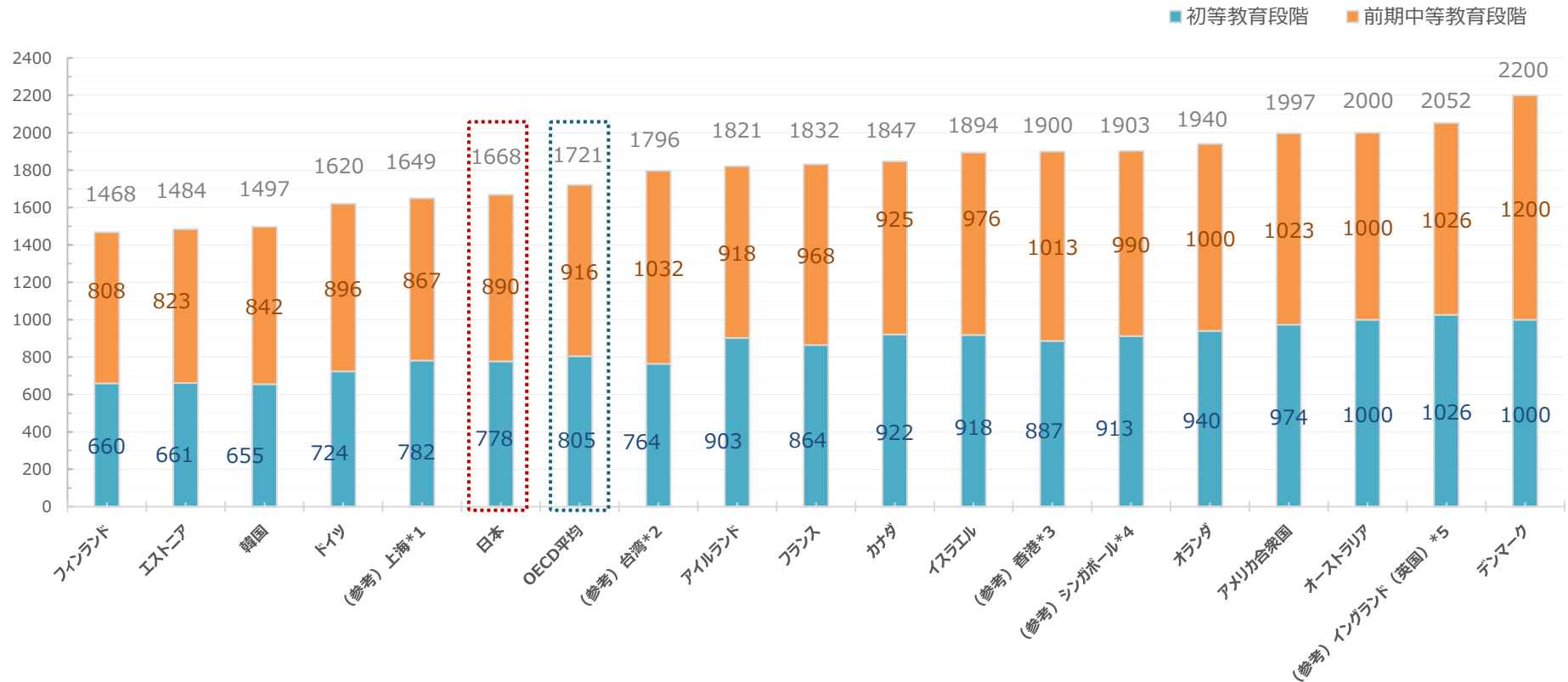
- ・ 単位授業時間は45分一律で割り当てられている。

	授業時間	月	火	水	木	金
8:30～9:15	45分	数学	フランス語 /ドイツ語	スウェーデン語	—	母語と 母語文学
9:15～10:00	45分	英語	数学	スウェーデン語	フランス語 /ドイツ語	宗教・ 倫理
10:25～ 11:15/11:30	45分*	音楽	英語	数学	歴史/ 社会	手工
11:15/11:30 ～12:15	45分*	音楽	母語と 母語文学	音楽	歴史/ 社会	手工
12:45～ 13:30	45分	母語と 母語文学	環境 教育	美術	母語と 母語文学	体育
13:30～ 14:15	45分	数学	環境 教育	美術	音楽	体育

*：3 時間目または 4 時間目の最中に昼食を取り、日によってその時間が異なるため、開始時間もしくは終了時間がフレキシブルとなる。また各コマの開始時間と終了時間の差が45分の授業時間と一致していない場合がある。

小中学校段階の必修授業時間数の国際比較（年間平均、2023年）

- OECDの調査によれば、義務教育における年間必修授業時間数（年間平均、実時間(hour)換算）は、OECD平均で1721時間（初等教育段階：805時間、前期中等教育段階：916時間）であり、日本の必修授業時間数はOECD平均よりも53時間少ない。



※日本、OECD平均、アイルランド、アメリカ合衆国、イスラエル、エストニア、オーストラリア、オランダ、カナダ、韓国、デンマーク、ドイツ、フィンランド、フランスのグラフはOECD「Education at a Glance」（2023）の数値（調査年は2022年）を基に作成。日本は、各教科等の標準授業時数だけでなく、行事の時間等の平均値も加えて算定されている。

表内注記に関して、上海、台湾、香港、シンガポール、イングランド（英国）の数値は文部科学省にて算出。算出方法は以下参照。なお、小数点以下が発生する場合は、切り捨てて表記している。

※1：上海は、上海市が定める「[上海市義務教育課程実施規則](#)」に記載の単位授業時間、週当たり授業時数及び授業週数より必修授業時間数を算出。

※2：台湾は、教育省が示す「[Curriculum Guidelines of 12-Year Basic Education General Guidelines English Ver.](#)」に記載の単位授業時間、週当たり最低授業単位数及び年間学校週数を基に算出。授業週数を定めた教育法規は確認できなかったため年間学校週数より算出したことから、必修授業時間数よりも上振れしている可能性に留意。

※3：香港は、香港教育局が示す「[小學教育課程指引](#)及び「[中學教育課程指引分冊2](#)」より必修授業時間数を抜粋。

※4：シンガポールは、[教育（学校）規則1957年](#)に記載の週当たり最低授業時数と[国立教育政策研究所「諸外国の教育課程の動向」（令和4年3月）](#)に記載の年間授業週数を基に必修授業時間数を算出。

※5：イングランド（英国）は教育省が示す「[Length of the School Week Case Studies](#)」のMountjoy Schoolの事例より、児童生徒の登校から下校までの開校時間から休憩やランチタイムを除いた時間を授業時間とみなし、実態に基づく授業時間数を算出。

教育課程特例校制度

教育課程特例校とは

文部科学大臣が、学校教育法施行規則第55条の2等に基づき指定する学校において、学校又は地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するための特別の教育課程を編成することを認める制度。 ※予算措置なし

指定の要件

- 学習指導要領等において全ての児童又は生徒に履修させる内容として定められている内容事項が、特別の教育課程において適切に取り扱われていること。
- 総授業時数が確保されていること。
- 児童又は生徒の発達の段階並びに各教科等の特性に応じた内容の系統性及び体系性に配慮がなされていること。
- 保護者の経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点から適切な配慮がなされていること。
- 児童又は生徒の転出入に対する配慮等の教育上必要な配慮がなされていること。

指定の状況（令和6年4月現在）

指定されている管理機関数： 225件

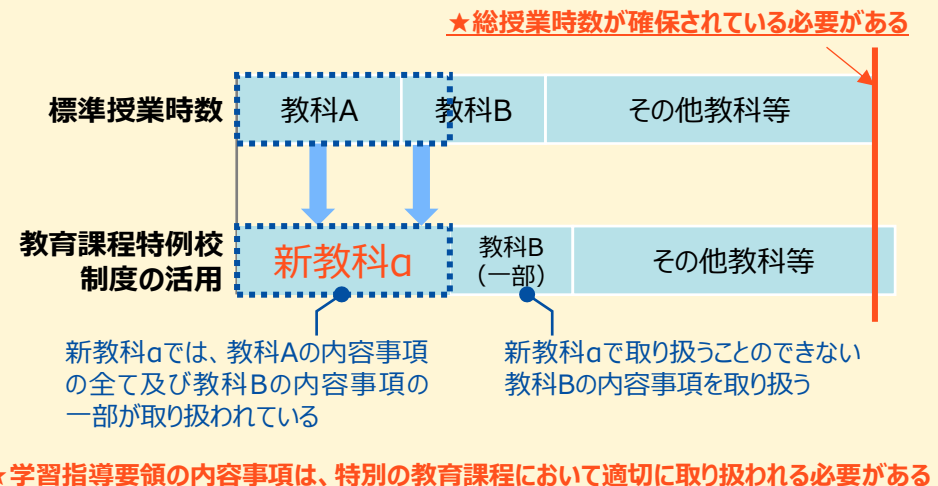
指定されている学校数： 1,845校



【主な取組内容】

- 学校や地域の実態に照らした新教科等の設定
(例) 北海道羅臼町：理科、生活科、総合的な学習の時間等を削減し、新教科「知床学」を設定
(例) 信州大学教育学部附属松本小学校：1～2 学年の既存の各教科をすべて統合・再整理し、「ことば」「かがく」「くらし」「ひょうげん」の4つの領域を新設
- 既存教科を英語で実施（イマージョン教育）
(例) 私立西大和学園中学校・高等学校：音楽・体育の一部を英語で実施
- 学校段階間の連携による教育
(例) 東京都立川市：特別活動や総合的な学習の時間等を削減し設定した新教科「立川市民科」により、小・中学校が連携した学習活動を実施

教育課程特例校における授業時数のイメージ



授業時数特例校制度

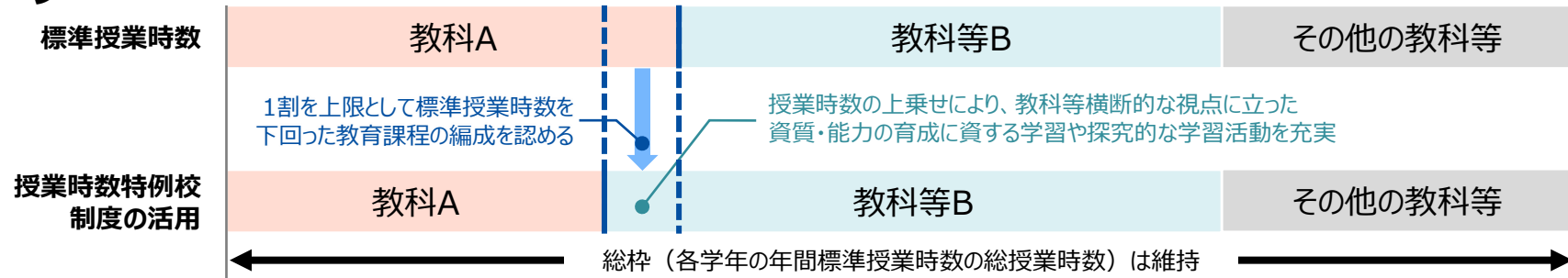
制度概要

- 義務教育段階において、学年ごとに定められた各教科等の授業時数について、**総枠としての授業時数**（各学年の年間の標準授業時数の総授業時数）は維持した上で、**1割を上限として各教科**（※1）の**標準授業時数を下回った教育課程の編成**を特例的に認める制度。
- 下回ったことによって生じた授業時数を**別の教科等の授業時数に上乗せ**することで、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成（※2）や探究的な学習活動の充実に資する教育課程編成の一層の推進を図る。
- 令和3年7月に制度創設し、令和4年4月から実施。**

（※1）音楽（中学校第2,3学年）、美術（中学校第2,3学年）、技術・家庭、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動を除く。

（※2）学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成（伝統文化教育、主権者教育、消費者教育、法教育、知的財産教育、郷土・地域教育、海洋教育、環境教育、放射線教育、生命の尊重に関する教育、健康教育、食育、安全教育的充実など）が考えられる。

イメージ



学校の指定（学校教育法施行規則第55条の2、平成20年文部科学省告示第30号）

文部科学大臣が、以下の要件等を満たす学校を指定する。
（指定の要件）

- 学習指導要領の内容事項が適切に取り扱われていること。
- 各学年の年間の標準授業時数の総授業時数が確保されていること。
- 児童生徒の発達の段階、各教科等の特性に応じた内容の系統性・体系的に配慮がなされていること。
- 保護者の経済的負担など、義務教育の機会均等の観点から適切な配慮がなされていること。
- 児童生徒の転出入など、教育上必要な配慮がなされていること。

指定の状況（令和6年4月現在）

指定されている管理機関数：27件

指定されている学校数：104校



主な取組内容	
渋谷区（全小学校）	探究的な学習活動の充実のため、総合的な学習の時間の授業時数を増加し、午前に各教科の学習、午後に子どもの主体性を重視した探究を実施するカリキュラムを編成。
京都府京都市（義務教育学校）	伝統文化教育等の充実のため、音楽科の授業時数を増加。
宮崎県宮崎市（中学校）	環境教育、食育、STEAM教育等の充実のため、総合的な学習の時間の授業時数を増加。
私立星美学園（小学校）	国際的・平和的な世界の担い手教育の充実等のため、生活、外国語活動、総合的な学習の時間等の授業時数を増加。

研究開発学校制度

研究開発学校とは

教育課程の基準の改善に資する実証的資料を得るため、学習指導要領等現行の教育課程の基準によらない教育課程の編成実施を認め、新しい教育課程、指導方法等について研究開発を行う（昭和51年度から開始）。

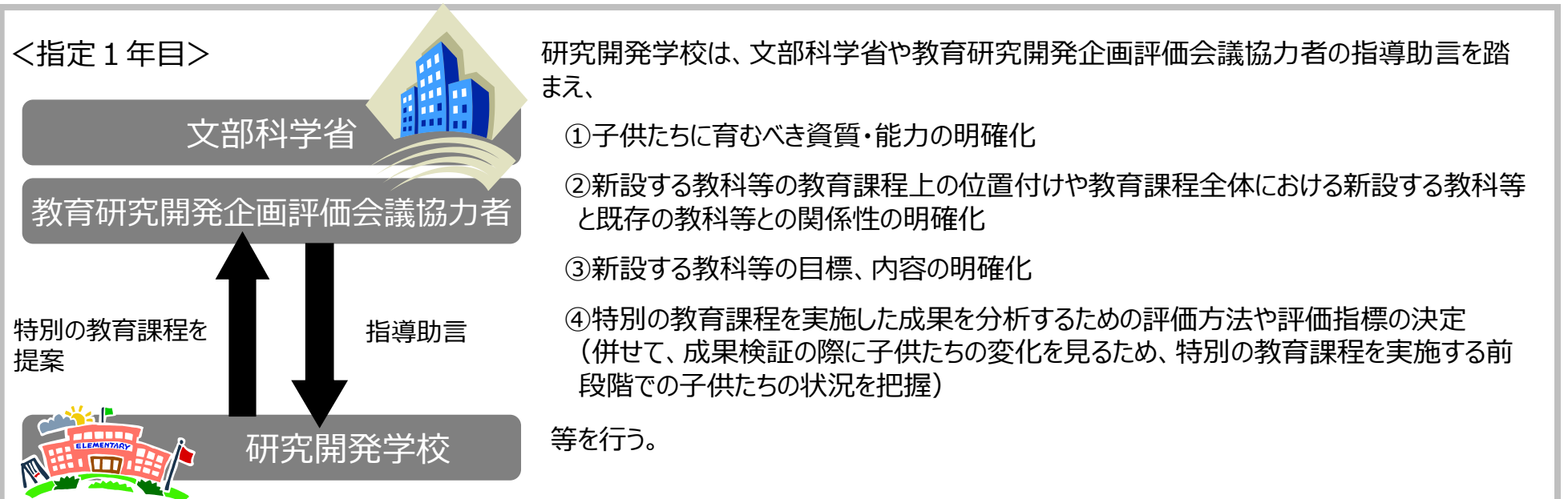
- 市町村教育委員会等の学校設置者からの申請に基づき文部科学大臣が指定（4年 ※平成24年度指定校までは3年）。
- 文部科学省が示す「研究開発の募集課題」や「研究開発の視点の例」に基づき、各学校の創意工夫により研究開発課題を設定。

※令和6年度の研究開発学校数は計25件、67校

令和6年度予算額 64,442千円（令和5年度予算額 68,360千円）

研究開発の推進イメージ例

<指定1年目>



<指定2～4年目> 指定1年目に、文部科学省や教育研究開発企画評価会議協力者の指導助言も踏まえて編成した特別の教育課程を実施し、教育課程や指導方法を改善するとともに、特別の教育課程の編成により、子供たちがどのように変化したかなど、成果の検証を行っていく。